

恵庭移転 30 周年に関連して

栗倉輝彦

私が水産孵化場にお世話になったのは、昭和 36 年 11 月から平成 6 年 5 月までの 32 年 6 ヶ月で、道職員としては、室蘭水族館での 3 年 7 ヶ月が加わるので、約 36 年間お世話になったことになる。調査課、調査研究部勤務が長かったが、支場勤務では 10 年前の機構改革で閉鎖になった森支場と、この時、道北支場になった後、閉鎖になった増毛支場の 2 箇所で、単身赴任の経験も 4 年間させていただいた。この間、多くの皆さんとの出会いがあり、大変お世話になった。

調査研究部魚病科では、科の創設から 10 年間勤務させていただいたが、私にとって最も充実した時期であったように思う。現在は内水面資源部内水面研究グループ（魚類防疫）になっているが、今年で創設 41 年目になる。この当時、勉強させていただいたことは、2011 年ま

で道内の 4 大学で非常勤講師として、講義をさせていただいた。



米国内務省 東部魚病研究所

本場の移転本決まり

<p>昭和 11 年以来、現在地において精進川から取水して、さけ稚魚の放流、鯉、金魚の種苗生産事業や、さけ、ますを含めた内水面増養殖事業に係わる試験研究が行われてきたが、昭和 30 年中頃から都市化が急速に進み、これに伴って河川環境が著しく悪化し、昭和 44 年には種苗生産を中止するに至った。</p> <p>一方、昭和 39 年から本場の適地調査が行われ、昭和 47 年度までの調査結果に基づいて、その移転先を恵庭市北柏木町に決定した。</p>	<p>昭和 49 年 3 月には、北海道土地開発基金が土地を取得、更に立地条件等について昭和 56 年度まで調査を実施、昭和 57 年度には基本設計調査を、昭和 58 年度には実施設計が行われ、昭和 59 年度から着工、昭和 60 年度には完成移転の予定である。</p> <p>なお、施設の概要は次のとおりである。</p> <table border="0"> <tr> <td>敷地面積</td> <td>20,061 m²</td> </tr> <tr> <td>研究管理棟</td> <td>2,469.7 m²</td> </tr> <tr> <td>採卵室等付属建物</td> <td>153 m²</td> </tr> <tr> <td>屋外試験池</td> <td>861 m²</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(特別研究員 伊藤小四郎)</p>	敷地面積	20,061 m ²	研究管理棟	2,469.7 m ²	採卵室等付属建物	153 m ²	屋外試験池	861 m ²
敷地面積	20,061 m ²								
研究管理棟	2,469.7 m ²								
採卵室等付属建物	153 m ²								
屋外試験池	861 m ²								

故伊藤小四郎氏による本場移転の記事
魚と水 22 号(昭和 59 年)より転載 復刻 佐々木義隆



実験室の内部 (1979 年に写す)



建築中の恵庭庁舎 (一寸違うが、実験室の窓側のデザインは東部魚病研究所に似ている)



左から：本間さん（故人）、新谷さん、外崎さん、小島さん、伊藤さん、私

私は旧道立水産孵化場が恵庭に移転した時は当時の増毛支場に勤務していた。すなわち、1984年5月に札幌市中の島から増毛支場に転勤し、1988年4月に恵庭に移転した本場に転勤した。このため、1985年の札幌から恵庭に移転にかかわる直接の思い出はない。

設計の段階では、亡くなった伊藤小四郎さんと魚病研究室の内容について検討に参加した思い出がある。当初は上から見て横長の配置であったが、立地に合わせてロの字に改められた。また、実験室の窓側を有効に使用するアイデアを求められ、海外研修で訪れた米国内務省東部魚病研究所の例を次の写真で説明した記憶がある。

増毛支場勤務は単身赴任であったので、土日は札幌に帰ることが多かった。時々、恵庭に寄って建築の進み具合を見ていたが、東部魚病研究所のアイデアが採用されたことを知り、嬉しく思った記憶がある。

当時は私が勤務していた増毛支場の他に森、えりも、

宗谷、真狩および熊石の5支場があり、定期的に本場と支場の情報交換のための支場長会議が開催されていた。移転後初めて開催された会議の時、正面玄関の階段のところで、記念撮影を行った。

1988年に本場に戻ったが、魚病実験室は大変立派になっていた。しかし、新しい実験室を使用することは殆ど無く、寄生虫標本作製するため、休日に出勤して他の実験室を使用させていただいたことがあった。

道庁の初代水産課長であった伊藤一隆が1886年に米国に渡り、帰国後1888年、現在の千歳市に孵化場を建設してから、1936年に札幌市中の島に移転、中の島から1985年に恵庭市に移転、合計すると127年の歴史がある。

今後のさけます・内水面水産試験場の益々のご発展をご祈念申し上げます。

(元場長 あわくら てるひこ)



ご来場された常陸宮殿下にご説明する粟倉場長（当時）
1992年